

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ども療育センターきらキッズⅡ

公表日 2025年 3月 31日

利用児童数 63

2025年 3月 21日

回収数 49

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	46	3				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	46	2		1		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	40	7		2		・洗面所、トイレへの入り口が一段下がっているので注意を呼びかける掲示をします。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	49					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	49				個別の声かけなど、子どもに合わせた支援をしている。	・今後もお子さんの発達課題に合った課題を設定し、個々の習得段階に合わせた支援を目指します。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	43			5		支援プログラムの公表が遅れ、周知がされていないため掲示等を検討します
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	46			3		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	45			4		・個別支援計画に基づいて、具体的な支援内容を日々のフィードバックを通じて丁寧に説明していきます。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	44	1		4		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	45			4	長期休み(学校休業日)にはお出かけなどのプログラムがあり楽しんでいる。	・それぞれの目標を達成するために活動内容に変化を持たせ、子どもたちが楽しんで参加できるように工夫していきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	18	6	7	18	市民会館等で行われるイベントでは、多くの子どもと活動する機会があった。	・地域のイベント情報等はこれからも掲示していきます。注目していただけるように声をかけていきます。
保 護 者	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	47		1	1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	45	2		2		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	29	8	2	10		・実施に向けて検討していきます。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	49				毎回細かくフィードバックをしてきているのでありがたい。	・これからも送迎時にお子さんの家庭や学校での様子をお聞きし、療育に活かしていきます。フィードバックの時に、その日の様子をしっかりと伝えてお子さんの発達について話し合っていきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	48	1			・フィードバックは毎回丁寧にしてもらっている。 ・懇談会の回数が少なかった。	・前期、後期に1回ずつ懇談を設けるようにしています。保護者の方からの要望があれば、その都度時間を設けるようにします。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	48	1				

への説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	6	9	19	・きょうだい児のフォローの仕方を相談できる人が周りにおらず悩むことが多い。相談できる機会があると嬉しい。	・参観日の際に、保護者の皆さんの交流の時間を設けるようにしていきます。 ・「中学校からの進路を考える座談会」を開催して、先輩保護者の方のお話を聞く機会を設けていきます。きょうだい児への対応についても、お話していただけるようにします。今後の進路の参考にさせていただきます。交流が持てるようにしていきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	39	3		7		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	48			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	34	2	3	10		自己評価表の公表が周知されていないため掲示等を検討したいと思っています。通常の活動内容等の発信については必要性についてアンケート調査を行うなど検討します。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	45	2		2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	39		2	8		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	39	2		8		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	42	1		6		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	37	1		11	そのような状況になっていないためわからないが、対応されていると思う。	今後も、事故や怪我が発生した時は速やかに保護者に連絡するとともに、状況説明や今後の対応方針などを説明していきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	48	1			同学年の子のグループということもあり一番安心して通っている。"やりたくない＝苦手な事"も無理をさせず本人の意見とやる気を引き出し、不安を軽くしてくれるので、挑戦してみることで、他の子へ気持ちを伝えることを学び成長していると思う。	・今後も親子ともに安心して通っていただける環境づくりをしていきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	46	3			とても楽しみにしている。利用してよかった。	・今後も子どもたちが「楽しい」や「できた」「もっとやりたい」を感じられるように努めていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	48	1			・自宅ですることなど、助言をもらえて助かっている。 ・毎週の活動だけでなく、学校休業日中の特別療育もとても充実していてすごいと思う。職員も忙しい中いつも笑顔で丁寧で、心から感謝している。 ・下の子を抱いた状態でサインや、鍵の開け閉めが辛い。 ・4月提出の連絡票・発達状況調査票等、書くのが大変。簡素化してほしい。	・書類への署名時には兄弟姉妹の方が安心して待っていただける場を設定します。 ・入口の鍵はお子さんたちの安全のためにも不可欠なので、保護者の方が使いやすいものを探していきます。 ・年度初めの書類については、簡素化できるところがあれば工夫して提供していきたいと思っています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こども療育センターきらキッズⅡ			公表日	2025年 3月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		4	3		・スタッフ全体で利用者の状態を把握し、個別に対応する子、小集団で対応できる子にそれぞれ適切なスタッフを配置できるようにしていく ・病欠などで急にスタッフに欠員が出た場合の職員の補充について、法人間で協力できるようにしていく
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		3	4	入り口近くにお知らせボードを置き、保護者の方に新しい情報をお伝えしている。	・職員間の情報伝達についてもスムーズにできるように、事務室の環境も整えていく
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		7			
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		7		個別相談ができる部屋があり、クールダウンなどに使っている	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・カンファレンス、リーダー会を設けている	・その時に、日々の療育についての話し合いだけでなく、職員の業務全体に対する意見も聞いていくようにする
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		・第三者評価を実施していない。今後の検討課題
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			・職員間で今後もよく話し合い、全員が計画に沿った支援ができるようにしていく
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・常に、インフォーマルなアセスメントと、フォーマルなアセスメントを併用し、お子さんの発達課題の把握に努めている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		・毎回療育後に話し合いの時間を持って、療育内容やお子さんの反応、保護者からの相談内容について共有している	・法人全体の会議等があった時にその日の振り返りができないことがある 次回療育前に振り返りを行い、共有できるようにしていきたい
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		・学校休業日中には、地域の高校生ボランティアを受け入れ、交流を続けている	・地域での防災イベントや、体験活動の募集チラシ等子どもたちや保護者のわかりやすい所に掲示しているが、参加者が少ない状態。今後も参加を呼び掛けていきたい
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			子どもたちが主体的に活動を進めていけるように、内容について子どもと共に活動を組み立てていくようにする。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	・保護者から要望があった時や、お子さんの様子で心配な時には、電話で担任や主任に連絡を取って情報を共有している	・みどりファイルを活用して、支援計画やモニタリングの内容を学校と共有できるように保護者に依頼する
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		岡崎市では「みどりのファイル」を使ってお子さんの成長に伴い、必要な情報を共有することになっているため、必要な書類を作成している	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	・法人内研修で事例検討会を開催し、支援について助言を受けている	・研修日程の職員への連絡を徹底し、多くの職員が参加できるようにする
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	2	・地域で開催されるイベントのチラシを配布し、参加を呼び掛けている	・今後も継続していく
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	1		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	・法人として「子育て応援セミナー」を実施している		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7				

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・前期・後期に一度ずつ個別の懇談会を実施している	・職員によっては、児発管が同席するなど対応をしていく必要がある
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	4	・参観日や法人イベントで、家族が交流できる場を設けている ・「中学校からの進路を考える座談会」を開催して、先輩保護者の方のお話を聞く機会を設けている	・参観時に保護者同士の交流の場を設けて、現在の悩みや、今後の進路について話し合いをしていきたい
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	・法人として周年イベントや餅つき大会など、地域の方にも参加を呼びかけ盛況だった	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	1		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		・食物アレルギーのあるお子さんについては、年度初めに保護者から詳しく聞き取り、医師の指示書に基づいて対応している	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		・常に掲示している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		・法人全体の職員会議で、毎回各事業所からの報告で共有し、検討している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども療育センターきらキッズⅡ		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 7日		～ 2025年 3月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	63	(回答者数) 49
○従業者評価実施期間	2025年 3月 10日		～ 2025年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動スペースが十分に確保されており、設備も充実していること。 それにより、学習や活動の前後に、大きく身体を使った遊びや揺れ具などの遊具を使った遊びなどもできること。	法人内の他事業所での取り組みや、外部研修などから子どもたちの発達課題に応じた遊びや活動を設定し、より楽しく参加できるように努めている。	法人内での事例検討会を含め、それぞれの事業所での実践報告等、療育の質を高めるための情報共有をすること。
2	同学年のグループや近い学年のグループで療育が組まれていること。 学校休業日中は、学年間の交流もできるようにグループを組み、活動内容も子どもたちの興味ある活動になるように工夫していること。	それぞれの年齢や発達課題に合った活動を組み、同年代の仲間として楽しめるようにしている。 学校休業日中は、公共交通機関を利用して県内の施設(動物園や科学館等)に出かけ、普段の療育とは違う経験ができるようにしている。その際は、異年齢との交流もでき、協力し合う姿も見られている。	子どもたちが主体的に活動を進めていけるように、内容について子どもと共に活動を組み立てていくようにする。 地域資源について職員間で研修を深め、子どもたちが楽しめる遊びや体験の機会を作っていく。
3	教員、臨床心理士、公認心理師、作業療法士、療育経験の豊富な児童指導員と多職種の職員で療育を行っている。	職員それぞれの専門性を活かした療育を提供している。 毎回療育後に話し合いの時間を持って、療育内容やお子さんの反応、保護者からの相談内容について共有し、療育の課題について検討している。。	今後も多職種の職員が色々な視点からの意見を出し合い、療育が提供できるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングや保護者同士の交流会の場の提供	毎年課題になっているが、取り組めていない。	事業所単位での立案は現在出来ていないが、法人全体でこの課題を解決するように努める。
2	利用者の方への情報提供不足。 特に防災等の訓練、各種マニュアル等の周知が全ての利用者に届いていない。	掲示板での報告だけでは見ていない保護者も多い。	掲示板で報告するだけでなく、ホームページや連絡アプリを活用して確実に情報提供をしていく。 支援計画やモニタリングの説明時に、保護者の方に周知をしていく。
3			